



2026 年 7 月 17 日

農林中央金庫

北海道別海町における J-クレジット活用に関する連携協定締結について ～酪農学園・雪印メグミルク・別海町森組との連携～

農林中央金庫（以下、「農林中金」）は、学校法人酪農学園（以下、「酪農学園」）、雪印メグミルク株式会社（以下、「雪印メグミルク」）および別海町森林組合（以下、「別海町森組」）との間で、北海道別海町における酪農学園所有林への J-クレジット^{※1} 活用に関する連携協定（以下、「本協定」）を締結いたしましたので、お知らせいたします。

本協定は、共通の建学・創業者である黒澤西藏の理念をルーツに持つ酪農学園と雪印メグミルクが、地域の環境保全や次世代人材育成に向けて、農林中金の支援のもと、別海町森組と連携して取り組む初の 4 者連携事例です。

1. 概要

本協定は、建学・創業者のひとりである黒澤西藏を共通のルーツに持つ酪農学園と雪印メグミルクが、森林由来 J-クレジット（以下「クレジット」）の活用を通じて、地域環境への貢献と次世代人材の育成を推進することを目的とするものです。

今回、酪農学園が北海道別海町に所在する学園所有林（約 280ha）を対象にクレジットを創出し、そのクレジットを雪印メグミルクが購入、事業活動で排出される CO₂ 等の温室効果ガスのオフセット等に活用します。また、クレジット創出および森林管理にかかる実務等を別海町森組がサポートし、農林中金はクレジット売買の媒介および全体のコーディネートを実施します。

購入代金は、主に酪農学園所有林の森林整備に活用されます。適切な森林整備が行われ、森林が持つ水源涵養等の公益的機能が十分発揮されることで、下流に所在するラムサール条約^{※2} 登録湿地の「風蓮湖」を含む地域環境全体の生物多様性維持・増進への貢献が期待されます。

さらに、購入代金の一部は、学園所有林内における森林整備や植生および生物調査や、その他酪農学園の実習費用に充当され、酪農学園が目指す「自然と調和・共生する社会の形成に貢献できる人材」の育成につなげます。

2. 今後の展開

農林中金は引続き、本協定を含むクレジットの取組み拡大に注力し、森林・林業の持続的な発展と企業の脱炭素経営をつなぐ役割を果たしていきます。今後も、森林資源の価値向上や地域資源の循環利用を支援するとともに、多様な主体との連携を通じて、持続可能な森林管理を後押しし、脱炭素社会の実現へ貢献します。

以 上

<本協定イメージ図>



<連携協定締結式の様子>



(左から：別海町森林組合 代表理事組合長 池田様、学校法人酪農学園 理事長 高島様
雪印メグミルク株式会社 常務執行役員 畑本様、農林中央金庫 理事専務執行役員 尾崎)

<酪農学園所有林（手前）と風蓮湖（奥）>



※ 1 J-クレジットとは、省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用による CO₂ 等の温室効果ガスの排出削減量や、適切な森林管理による CO₂ 等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度。本リリースでは、適切な森林管理によるクレジットを、森林由来の J-クレジットと称する。

※ 2 ラムサール条約について(環境省 HP)

https://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/About_RamarConvention.html

<森林由来の J-クレジットプロジェクトの概要（申請予定）>

1. 対象森林	約 280ha
2. 対象期間	8 年間
3. 森林区分	育成林、天然林
4. J-クレジット創出量	約 11,000t-CO ₂ （予定）

<本件に関するお問い合わせ先>

農林中央金庫 経営企画部 広報コミュニケーション班（藏方、丹羽） 03-6362-7172